

休眠預金活用事業 支援対象活動計画書（詳細版） 【2024年度 支援対象団体】

団体基礎情報		
団体名	ふりがな	かぶしきがいしゃまきのらはぼ
	株式会社マキノハラボ	
団体所在地	郵便番号	〒421-0511
	住所	静岡県牧之原市片浜1216-1
主な活動地域	静岡県牧之原市	

外国ルーツ受益者を対象とした自団体の現在の活動と課題について		
団体による外国ルーツ支援活動の実績・成果 （400字以内）	日本語初期支援教室いっぱ：受入れ生徒数（2023年～2025年8月時点）67名 はじめての日本語教室：受入れ生徒数（2021年～2024年）173名	
団体の外国ルーツ支援において課題だと感じていること（課題感が強いものから順に記載）		
分野全体としての課題	課題	詳細
	① 支援の継続性	日本語初期支援があっても、卒業後のフォロー（学習、進路、生活）が十分につながらず、支援が途切れることで学習の遅れや孤立につながりやすい。
	② 要支援児・グレーゾーンの子 どもへの対応	言語の課題（日本語理解）と発達特性・学習困難が重なる場合、支援方針が難しく、現場で対応が属人化しやすい。教材・指導法・専門家連携が不足している。
	③	
活動地域の課題	課題	詳細
	① アクセスの悪さ	教室や支援資源へ通うための移動手段が限られ、家庭の就労状況（シフト勤務等）も相まって、通所の継続が負担になりやすい。結果として、必要な支援があっても参加頻度が安定しない場合がある。
	② 特別支援級に係るまでに時間 がかかる	発達特性や学習上の困難が疑われても、学校内の検討や外部機関との連携、保護者への説明・合意形成などに一定の時間がかかり、支援開始までに空白が生じやすい。外国ルーツ家庭の場合、言語面のハードルにより状況理解や相談が遅れるケースもある。
	③	

活動支援プログラム参加について		
団体の組織上・活動上の課題*（400字以内）		
現在、当事業で抱える課題は主に5つある。		
① 子ども支援の充実（4点） 要支援児・グレーゾーンの子どもへの対応が不十分。 初期支援を終えた後も学習の遅れを抱えるケースがあり、アフタースクールでの支援が必要。 初期支援が定員制による待機児童への対応が課題。待機中の学習の効率化や可視化の仕組みが必要。 日本人との交流機会が限られており、広報やボランティア募集を強化し、多様な人々と関わる場を広げる必要がある。		
② 外部とのネットワーク構築（1点） 静岡県内の日本語教室との連携を深め、助け合えるネットワークを構築することが求められる。		
活動支援プログラムで受けたい支援内容		
優先度		具体的なご要望があれば
2番目	組織運営支援	・資金調達に関する提案と助言がほしい。 ・備品費や運用費、人件費等の活動に必要な資金について、申請可能な助成金等を知りたい ・アフタースクールを安定的に継続して運営するための体制や内容を整理したい。
4番目	社会的インパクト評価支援	評価内容を深めたい。（単に〇人在籍しただけではなく） ・当団体の「いっぽ」を卒業した生徒に、より長期的な視点での社会的インパクト評価を実施したい。そのための調査手法や分析法を知りたい。 ・特別支援が必要な子どもに関して知識を深める研修を受けたい。 ・特別支援が必要な子どもに対応できる教材や指導方法を整備したい。 ・アフタースクール型の継続支援プログラムを整理したい。 ・他自治体の日本語教室への視察を繋げてほしい。 ・アフタースクールにおける教材の精査に協力してほしい。
1番目	事業実施支援	
5番目	広報・情報発信支援	・イベント等の広報で日本人に向けた効果的なアプローチの仕方を知りたい（書き方やどの媒体を利用するか等） ・日本人ボランティアを確保するために有益な広報を教えてほしい。 ・静岡県内外の日本語教室や外国ルーツ支援団体と連携し、教材やノウハウを共有できるネットワークを作りたい。その際、参加者・参加団体の選定についても支援を受けたい。 ・特別支援教育の専門家や臨床心理士等と連携し、教育・福祉を横断した支援ネットワークを形成したい。
3番目	つながりづくり支援 その他	

活動支援プログラム終了後について	
本活動支援プログラムへの参加から上記の想定を実現した場合の短期・中期・長期アウトカム（事業や団体の活動の成果）を記入してください。	

短期アウトカム（成果）	・特別支援が必要な児童生徒向けの教材や指導方法を試行的に導入し、効果を検証する。 ・初期支援終了後も継続的に学習サポートが受けられるアフタースクール型プログラムを試験的に開始する。関係者（市内の小中学校に在籍する外国ルーツの子どもとその保護者、小中学校の教員等）へのヒアリングを実施する。 ・他市町の日本語教室と関係を作る。
中期アウトカム（成果）	・アフタースクール型支援について、対象・内容・運営方法・費用感を整理し、行政や民間企業と連携し継続実施できる運営スキームを構築する。 ・学校関係者・教育委員会・福祉相談課と連携し、いっぽに在籍する特別な支援が必要な生徒に関しての情報共有の場を定期的に開催する。 ・他市町の日本語教室と連携し、教材共有や研修を行うネットワークの土台を形成する。
長期アウトカム（成果）	・牧之原市に在住する外国人について、日本語教育を必要とする人（子どもから大人まで）に継続して学習ができる機会と環境を提供する。 ・アフタースクールの体制が確立し、安定的な運営をする。 ・アフタースクールのスキーム、ノウハウ等をその他地域にも展開する。